

ふるさとの川・六斗目川とともに

5月～ 1月(25時間)

1 ねらい

- ・ふるさとを流れる六斗目川について追究を深めていくことで、郷土に受け継がれてきた環境に対して愛着を持つことができる。
- ・六斗目川の探検活動で得られた情報をもとにして、その問題点や改善点を話し合う中で、題材の中から課題を見つけ、その解決策を考えて実行していく力を養う。
- ・河川環境を調査し、その状態を保全、改善していくにはどのような方法があるのか追究し、活動実践を通して知識として身に付けることができる。
- ・身近な環境を維持、改善していく活動について追究、実践していく中で、もっと大きな視点でとらえた環境問題にも関心が持てるようにする。

2 実践の概要

(1) 六斗目川探検隊 ～上流から下流までたどってみよう！～

学区を流れる六斗目川は、学校の真横を流れていることもあり、子供たちにとっては身近な川である。低学年のころには、生活科の授業などで川に入って生き物探しをした経験もある。しかし、子供たちに、六斗目川がどこから流れてきて、どこへ流れていくか聞いてみると答えられる子はほとんどいなかった。そこで、身近な川を探る活動として、六斗目川を上流から下流までたどってみよう、と持ちかけ、川に沿って歩いた。距離が長いので、上流方面と下流方面とで二日間に分けて活動した。学校から上流に向かって流れをたどっていくと、川幅が徐々に狭くなり、自然あふれる、山がちな地形に入っていく。小高い丘を登ると目の前に広がる大きな池。子供たちから歓声が上がった。ここから六斗目川は流れてくるんだということを、驚きを持って知ることができた。下流への探検では、上流とは反対に、町の中を流れていく六斗目川の様子を見ながら下って行った。日清紡の工場の下を流れがくぐっていることや、男川との合流地点(すなわち六斗目川の終点)では、直接流れ込んでいるのではなく、男川の下をくぐってやや下流に流れ込んでいることなどを知ることができた。そしてこの活動の中で、川に棲む生き物の様子、川に流れ込む生活排水の様子、川の水のきれいさなど、後の活動につながるような気づきを多く得ることができた。



六斗目川上流探検

(2) 河川美化活動

緑丘小学校では、毎年、全校児童と学区の方々が参加して、河川美化活動に取り組んでいる。子供たちの活動は主に川岸の草取りと清掃、川の中の清掃である。六斗目川の探検活動の中で、川岸にごみがよく落ちていることも見つけていた子供たちは、六斗目川をきれいになりたいという思いを持って臨んだ。この河川美化活動は、もともと生活排水で汚れた川だった六斗目川を、昔のようなきれいな川に戻したい、という思いから、緑丘小のみんなの先輩たちが始めたんだよ、と子供たちに伝えて、その活動をまとめた本を紹介した。そして、今の六斗目川はきれいになったのだろうか、と問いかけてみると、うまく答えが出せないでいた。そこで、では実際に調べてみよう、と持ちかけた。



河川美化活動

(3) 環境教室

前回の活動を受けて、市の環境課の方に来ていただき、六斗目川の水質検査の講義をしていただいた。川の水を採取してその成分から検査を行う COD パックテスト、実際に川の中に棲んでいる指標生物を採集して、その生物の種類から水質を探る活動の二つの調査に取り組んだ。COD パックテストの結果からは、汚れの度合は少ないながらも、やや汚れが見られる、という傾向がわかった。また指標生物の調査では、ヒルやアメリカザリガニなどの汚い水に棲む生物が多く見られる中、きれいな水に棲むトビケラも見つかり、環境課の方も判定に苦労されていたが、汚い水に棲む生物の方が多く見つかったことから、やや汚れている、ということになった。活動を通して、水質を調べる方法を知るとともに、現在の六斗目川の水質が、やや汚れていることがわかった。



COD パックテスト体験

(4) 六斗目川をよりよい川にしていくために ～六斗目川ステップアップ計画～

六斗目川の現在の状況をふまえた上で、これから六斗目川をよりよい川にしていくために自分たちにできることは何か、話し合った。その中で出された意見から、自分が取り組んでいく活動を決めて、それぞれのグループに分かれて計画を立てて活動を開始した。

<川でのごみ拾い活動>

調査活動や河川美化活動の経験をもとに、川の中や川岸のごみをなくして、環境をきれいに保ちたいという思いから活動した。総合の時間だけでなく、家に帰ってから集まる時間を決めてごみ拾いをする計画を立てて実行した。



ごみ拾い活動の様子

<もっと六斗目川に親んでもらいたい>

六斗目川は汚れている、というマイナスイメージを払拭するために、今現在でも、たくさんの生き物がすむ美しい川であることをアピールしたいと考え、そこにすむ生き物をリストアップして、六斗目川にすむ生き物図鑑作りに取り組んだ。指標生物の学習を生かして、きれいな水にすむ生き物がすめる川になってほしいという願いを込めて、きれいな川にすむ生き物も加えて紹介した。

<川の水をきれいにするためには>

下流の調査活動で水の濁りがひどいところがあったことや、COD パックテストの結果を受けて、川の水質を改善したいと考えて活動に取り組んだ。川の水そのものをきれいにするために、以前緑丘小学校で EM 活性液を流して水質改善に成功したことから、EM 活性液を作り、六斗目川に流した。また、川の汚れの原因の一つは家庭から出される生活排水であり、汚れを落とすための洗剤も汚れの原因につながることを知り、洗剤を使わなくても汚れを落とせるアクリルたわし作り、一般的な洗剤よりも環境にやさしく、資源のリサイクルにもつながる廃油石けん作りにも取り組んだ。



EM 活性液の放流



アクリルたわし作り



廃油石けん作り

3 実践を振り返って

実践を通して、これまで知らなかった六斗目川の様子について深く追究したり状況を改善する方法を検討する中で、ふるさとの川を大切にしたいという思いを高められたと感じる。調べて判明した事実から問題点を見つけ、自ら考え解決していく力を伸ばして行ってほしいと願う。



六斗目川の生物壁面
除幕式の様子